

## 【短 報】 野生動物

## ヘビ類体表に腫瘍が認められた2症例について

大橋 赳実 浅川 満彦

酪農学園大学 獣医学群獣医学類感染・病理学分野 (〒069-8501 江別市文京台緑町582番地)

## 要 約

最近遭遇したヘビ類体表の腫瘍に関する2症例について報告した。斃死した飼育ハナナガムチヘビの腫瘍からは鉤頭虫 *Sphaerechinorhynchus* sp. が検出された。死因が鉤頭虫の異所寄生であったかどうかは不明であった。また、衰弱した野生アオダイショウの腫瘍内部からは行動調査等に使用される電波発振器が確認された。摘出後に元気を回復したので、衰弱の原因はこの装置の埋め込みが原因であった。

キーワード：ハナナガムチヘビ、鉤頭虫、アオダイショウ、電波発振器、異所寄生

-----北獣会誌 63, 433~434 (2019)

最近、著者らが運営する酪農学園大学野生動物医学センターWAMCに両生・爬虫類の寄生虫病症例の相談・依頼が急増している<sup>[1]</sup>。今回は北海道において、飼育下にあるヘビと野生ヘビの、体表腫瘍に関する2症例を報告する。

## 症 例 1

2019年1月に札幌市内の爬虫類専門店で購入されたハナナガムチヘビ *Dryophis nasutus* 1個体の頸部左側に2×1 cm程度の範囲で数mm高の腫瘍が認められた(図1)。オーナーが数日間観察したところ、この腫瘍が移動すること、時に2カ所以上で認められることなどが明らかとなった。また、食欲が激減し、運動性も低下し、

旋回などの異常運動を呈した。購入して10日後に斃死したのでWAMCに搬入され、剖検に供された(図1)。

脳および諸臓器に肉眼的な著変は認められず、消化管内にも寄生虫は確認されなかった。一方、腫瘍部皮下と体幹筋肉との間に白色の数mm長の蠕虫が認められた(図2-1)。当該蠕虫は計5個体が検出され、全て70%エタノール液に固定後、ラクトフェノール液で透徹し形態観察を行った。その結果、頭部には鉤を備えた吻が認められ、鉤頭虫であることが判明した。また、鉤の配列からPlagiorhynchidae科の *Sphaerechinorhynchus* 属<sup>[2]</sup>のある種と考えられた(図2-2および3)。最近、こ



図1. 飼育ハナナガムチヘビ頸部体表面に認められた腫瘍病変(矢印)



図2. 飼育ハナナガムチヘビ体表腫瘍病変から得られた鉤頭虫 *Sphaerechinorhynchus* sp.  
- 1 : 寄生状況 - 2 : 全体像 - 3 : 頭部

連絡責任者：浅川 満彦 (酪農学園大学獣医学群獣医学類感染・病理学分野)

〒069-8501 江別市文京台緑町582番地

TEL 011-388-4758 FAX 011-387-5890 E-mail: askam@rakuno.ac.jp

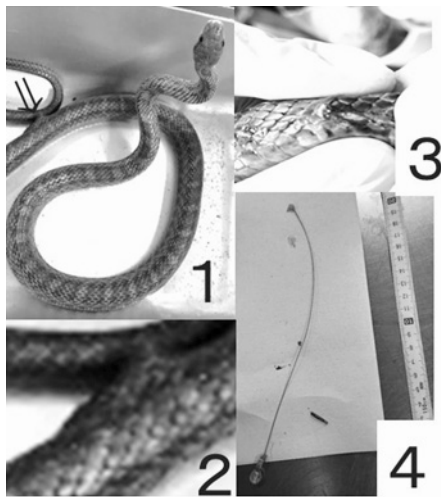


図3. 電波発振器により衰弱した野生アオダイショウ  
 - 1 : 埋め込まれた発振器 (本体) による腫瘤部  
 - 2 : 同部拡大像  
 - 3 : 同部試験的切開像  
 - 4 : 摘出された電波発振器 (本体は下部、上に伸びているのはアンテナ)

の属の鉤頭虫が斃死したヘビ類体腔から検出された事例が報告されたように[3]、本来の寄生部位である消化管以外にも認められる。今回は、この鉤頭虫が体腔から得られておらず、体幹筋層を穿孔したものと考えられた。

今回の死因がこの鉤頭虫の体内移行と異所寄生とするかどうかは不明である。しかし、上記のように他の内臓などに著変が認められず、その可能性は完全には否定できない。

## 症 例 2

2018年5月15日、札幌近郊の大学構内で野生アオダイショウ *Elaphe climacophora* (体長約50 cm) が衰弱した状態で保護されてWAMCに搬入された。体表を観察したところ、体中央部左側に、3×1 cm程度の範囲で約1 cm高の腫瘤が認められた(図3-1および2)。同部を切開したところ(図3-3)、人工物が確認されたのでこれを摘出した。人工物は動物の行動調査等に使用される20 cm長のアンテナを備えた電波発振器であった(図3-4)。切開部を縫合・消毒し、1昼夜経過観察した後、活発な運動を呈すことが確認されたので、この個体が最初に発見された場所に戻した。

本症例は、明らかに、個体に比して過大な人工物埋没による健康被害と考えられた。爬虫類も動物愛護法の対象となった今日、ヘビ類に対しても適切な調査研究手法を望みたい。

## 引用文献

- [1] Ohashi T, Chikamoto S, Asakawa M: Helminths and helminthiasis in captive amphibians and reptiles; a brief overview of recent records from Wild Animal Medical Center in Rakuno Gakuen University Japan, *Ann Clin Cytol Pathol*, 4, 1108 (2018)
- [2] Amin OM, Wongsawad C, Maratong T, Saehong P, Suwattanacoupt SS, Set O: *Sphaerechinorhynchus macropisthospinus* sp. n. (Acanthocephala: Plagiorhynchidae) from lizards, frogs, and fish in Thailand, *J Helminthol Soc Wash*, 65, 174-178 (1998)
- [3] Audini IS, Suwanti LT, Koesdarto S, Poetranto ED: Acanthocephalan in *Xenochrophis piscator* snake in Sidoarjo Indonesia, *Conf Paper Vet Med Intern Conf 2017*, U Airlangga, Indonesia, 21-27 (2017)